

徳島県における地域医療

～現状と確保対策の取組み～

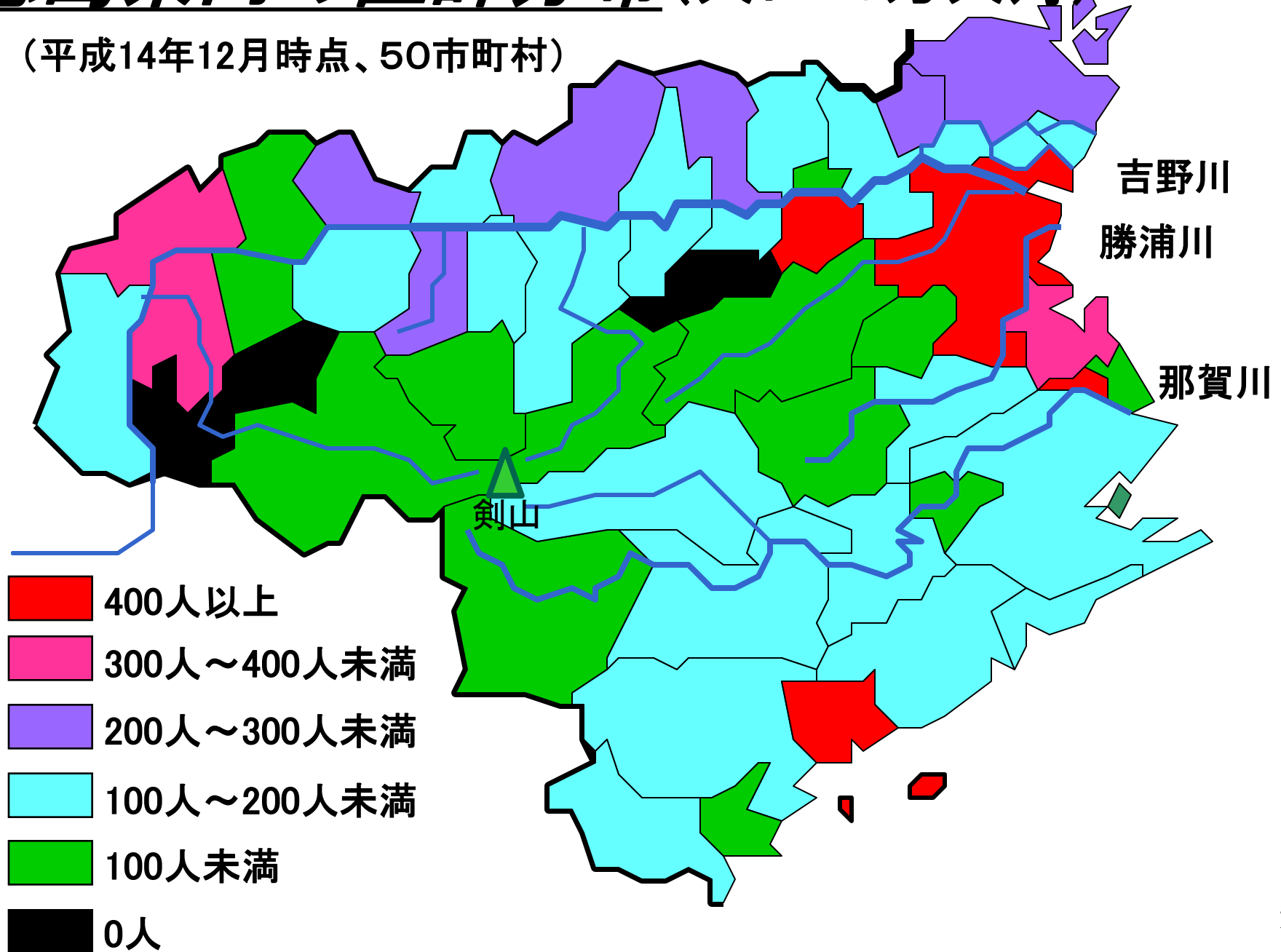
<そして、地域医療支援センターの展開>

徳島県保健福祉部

鎌村好孝

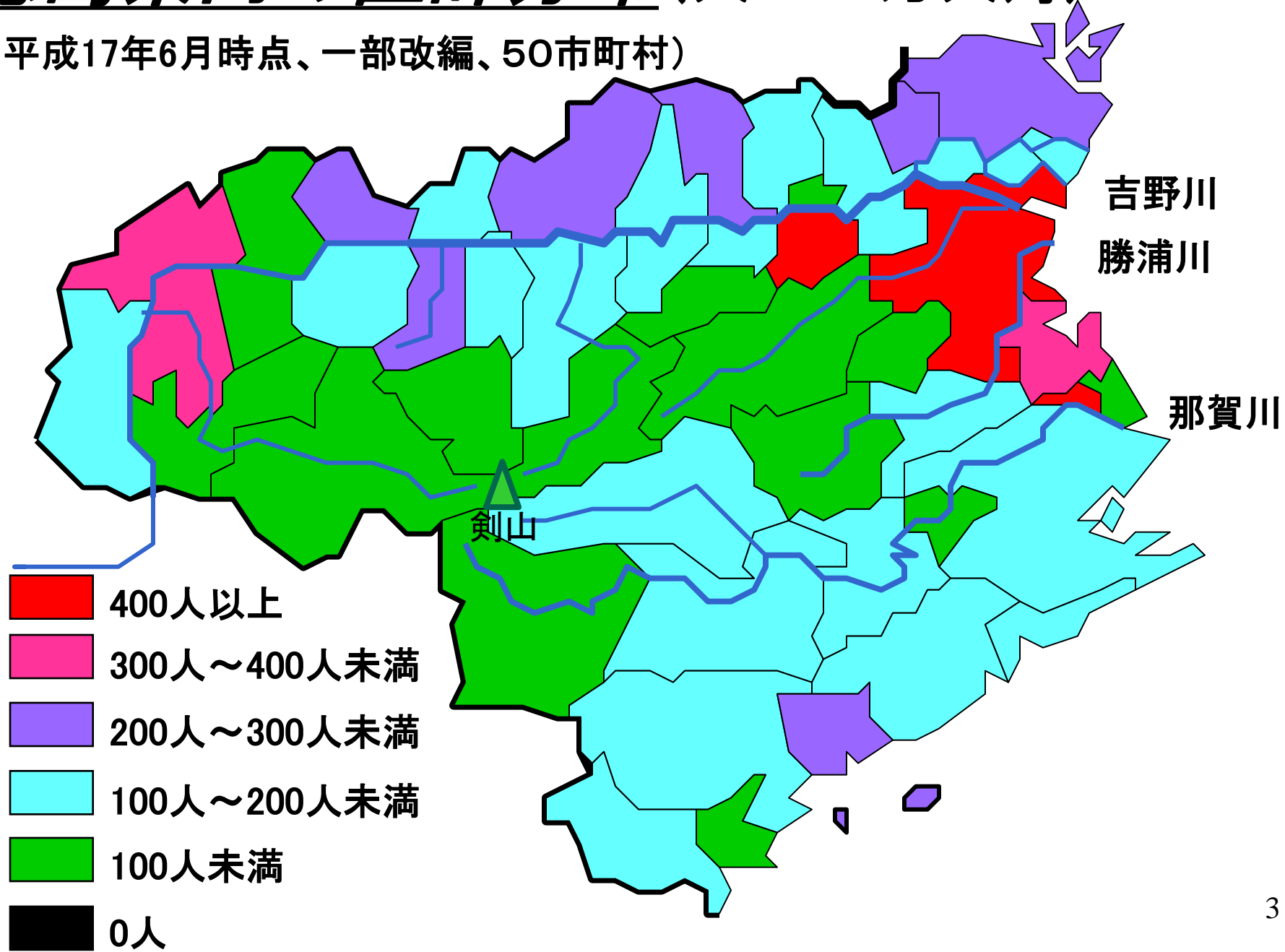
徳島県内の医師分布(人口10万人対)

(平成14年12月時点、50市町村)



徳島県内の医師分布(人口10万人対)

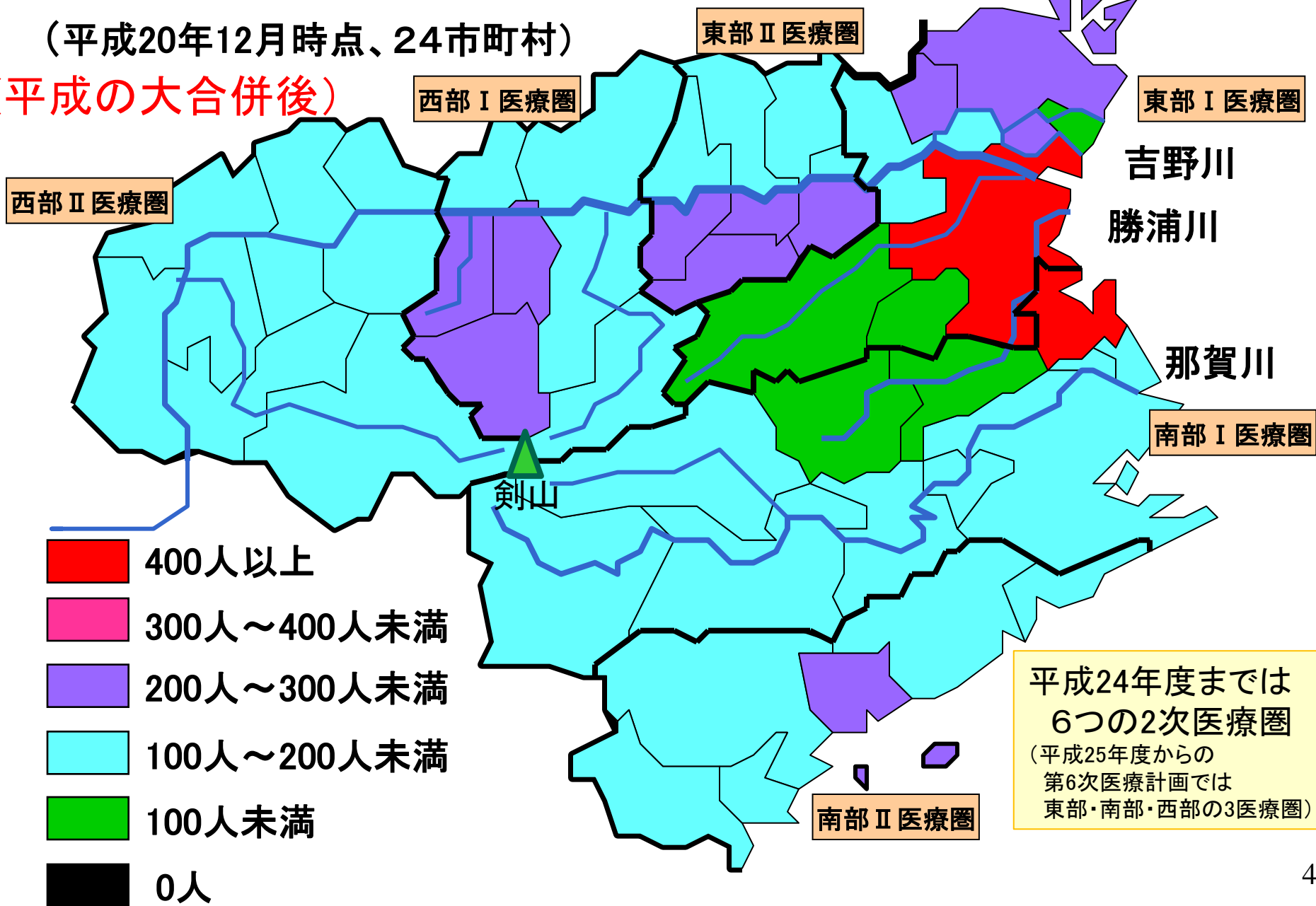
(平成17年6月時点、一部改編、50市町村)



徳島県内の医師分布(人口10万人対)

(平成20年12月時点、24市町村)

(平成の大合併後)



徳島県の主な状況

1 医師の状況

「医師・歯科医師・薬剤師調査等から」

○医療施設従事医師数 2,204人(平成20年) → 2,317人(平成26年)

○人口10万人当たりの医師数 303.27人 **全国第3位** (人口:763,873人)

しかしながら……

○県内でも、徳島市を中心とした東部地域に
医師の3分の2が集中し、**地域間格差**が存在

(平成26年)	医師数 対人口	女性医師 対面積	平均 割合	平均 年齢
京都	1位	8位	4位	42位
東京	2位	1位	1位	47位
徳島	3位	30位	3位	4位

○面積100km²当たり医師数は 55.87人 **全国第30位** (全国平均78.54人)

○医師の高齢化…平均年齢は 51.7歳 **全国第4位** (全国平均49.3歳)

○女性医師の割合は 22.7% **全国第3位** (全国平均20.4%)

○へき地では、常に医師確保困難状態

○県内全域で、開業医も高齢化・継承問題が顕在化

○公的病院・診療所の勤務医師が不足

○小児科・産科・外科の不足など、診療科偏在が顕著化

(さらに病理・麻酔科等の勤務医も)

**地域の医療を確保する上で大きな課題
特に公的医療機関の勤務医不足は大きな問題**

2 救急医療の状況

- 救急搬送人員 平成27年
平成7年 17,914人 → 平成21年 26,420人 (約1.5倍に) → 31,216人
- 救急搬送人員のうち軽症患者 (県外搬送49、ヘリ搬送272除く)
平成7年 7,492人 → 平成21年 11,812人 (約1.5倍に) → 14,379人 (46.1%)
(全体に占める割合も上昇)
- 救急告示医療機関数
平成13年 48機関 → 平成21年 37機関 (11機関減少) → 38機関
- 救命救急センター等(3次救急)の救急搬送人員
平成21年 10,212人 (全体の約40%) → 12,320人 (39.5%)

**医師不足に加え、救急告示医療機関の減少と
受診者数の増加等により、
救急勤務医が疲弊**

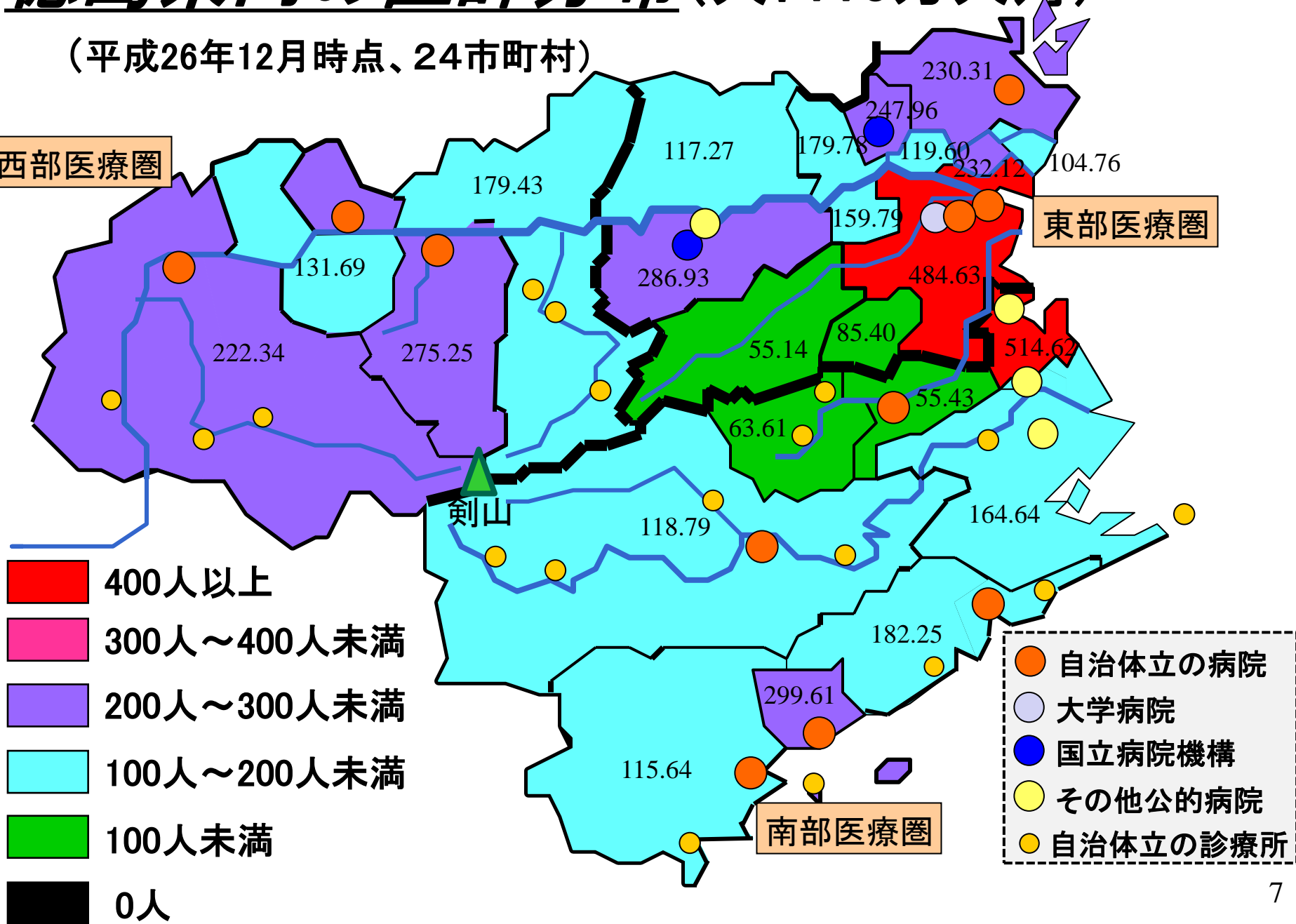
**救急医療の崩壊から病院の崩壊、
そして、地域医療の崩壊へ・・・？**

徳島県内の医師分布(人口10万人対)

(平成26年12月時点、24市町村)

西部医療圏

東部医療圏



地域医療を確保するために～徳島県の医師確保の取り組み～

医師不足

要因としては…

深刻な医師不足で
地域における医療の
提供が厳しい状況に

- ・平成16年度からの「医師臨床研修制度」開始後、研修医が県外へ流出（県内マッチング数は、開始後1年目65人、2年目38人へ、その後42人～66人で推移。（平均52.5人/年））。
- ・同時期より、徳島大学の医師が減少し、派遣機能が低下。
- ・救急外来患者（特に時間外の軽症）の急増や、患者の専門医指向の高まりなどにより、医療需要が増大、公的医療機関の勤務医師が疲弊し、現場離脱など。



医師不足を解消し、安全・安心の医療を提供していくためには
医師の養成、勤務環境の改善、県民への意識啓発など

総合的な医師確保の取り組みを展開する必要がある！

- ・地域枠制度開始までの間、徳島大学医学生（入学後）への修学資金貸与制度
卒業後、徳島県で地域医療人として、活躍を
 - ・夏期地域医療研修（医学生対象） 学生時代から徳島県のへき地医療に触れる。「見て」「聞いて」「感じて」「やってみる」
従来、自治医大生を対象→全国募集に拡大実施中（定員30名程度）
研修最終日午後、全体報告会には、知事も出席
 - ・高校生への医学部勧奨
説明会開催、主な進学高校訪問し進路担当教諭への説明（今年も）
 - ・臨床研修病院の充実とPR
医学生への合同説明会開催。徳島県臨床研修連絡協議会を設置
 - ・従来からのへき地医療支援事業推進
へき地医療拠点病院、自治医大卒業医師派遣、ドクターバンク事業：県医師会委託
- ◆そして、平成20年度から、とくしま医師バンク事業開始！



即効性を期待する施策

主な事業として

◆とくしま医師バンク事業

○ベテランドクターバンク

- ・退職した医師や有志の協力を得て、
公的医療機関への診療支援や代診医師として派遣

○医師無料職業紹介(一般ドクターバンク)

○ホームページの開設、

メールマガジンの配信(100号配信、約270人登録:平成28年9月時点)

◆勤務環境・待遇の改善策

○救急勤務医・産科医確保支援事業

- ・過酷な勤務環境の救急医・産科医の処遇改善を図るため、手当を支給する医療機関に対し助成

○県医師会との連携による支援体制の構築

- ・県医師会と連携を図り、有志による公的医療機関への支援体制構築を推進、勤務医の負担を軽減
県医師会に支援検討のための委員会設置し、会員アンケート調査実施
主にへき地医療機関への支援実施

○救急医療体制確保対策事業

- ・県民に対し、救急医療の適正な受診方法を啓発
- ・地域住民による地域医療を守る取り組みを「県民運動」として広げる。
- ・2次救急医療機関の機能充実を図り、3次救急医療機関の負担を軽減



中長期的な効果を期待する施策(医師の養成)

「総合診療医学分野」



◆徳島大学医学部定員増に伴う地域枠・医師修学資金貸与

- ・定員を95名から105名(H21)、105名から112名(H22)増員し、地域枠を拡大
- ・県はこの地域枠と連携し、医師修学資金を貸与
 - 平成21年度; 5名:特別地域枠、7名:地域枠。
 - 平成22年度から; 12名:特別地域枠、5名:地域枠

◆地域医療確保モデル事業(平成19年10月～平成22年3月)→その後、寄付講座

- ・県と徳島大学が連携し、総合診療医の養成等を目的に、「地域医療に関する共同研究」を実施
- ・徳島大学「地域医療学分野」:教授、講師、助教
- ・海部病院に「地域医療研究センター」設置

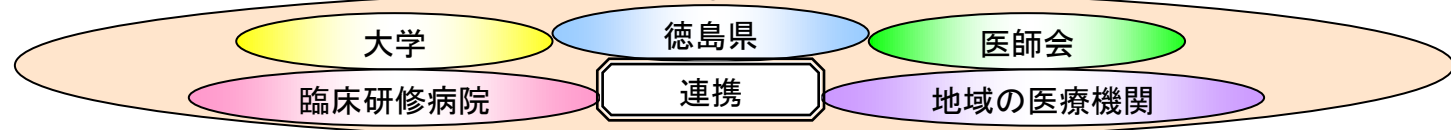
◆自治医科大学における医師養成

◆とくしま医師養成対策総合推進事業→多くの医師に、将来の徳島県の医療を担ってほしい。

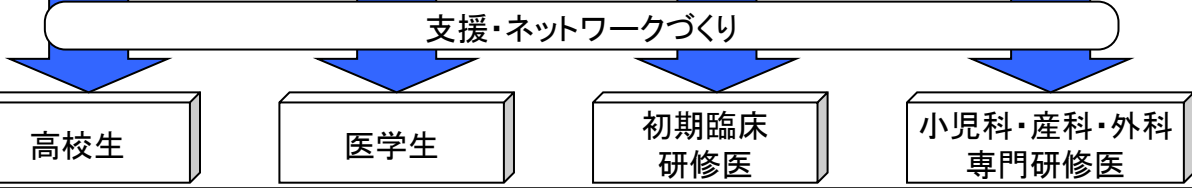
- ・高校生から医学生、臨床研修医、専門研修医に至るまで、切れ目なく総合的に展開

そのためには

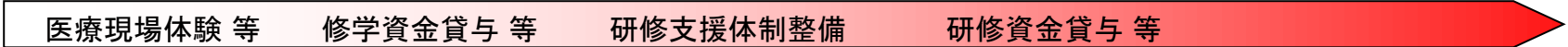
- ・将来、医師を志す学生を増やすこと
- ・医学生や研修医が、県内で安心して学べる環境を確保すること
- ・若いうちに、徳島県の医療の魅力を知ってもらうこと



高校生から大学医学部生、臨床研修医、専門研修医に至るまでそれぞれのライフステージに応じた施策を「切れ目なく」総合的に展開



地域医療に必要な医師の県内定着 (Retention of doctors in the prefecture necessary for local medical care)



高校生の夏期医学体験セミナー: 徳島大学医療教育開発センター協力で毎年複数回開催

(平成21年度から)



高校生の夏期地域医療体験ツアー(日帰りバスツアー): 県主催 (平成21年度から)

「救命救急センター・ドクターヘリ」と「へき地医療(相生包括ケアセンター: 那賀町)」

徳島県立中央病院



相生包括ケアセンター

◆セミナーやツアーを体験した高校生の中から、毎年、
徳島大学地域枠、自治医科大学の受験あり。
アンケート結果からは、体験者のモチベーションアップへ。

* センターを構成する組織(運営会議・企画委員会メンバー含め)の協力・連携。
地域医療支援センター設置前からの事業を、毎年、発展的に継続中。

◆ **地域枠医学生とのランチタイムミーティング** (知事、医学部長、総合診療医学分野教授の出席)
 地域特別枠医学生(修学資金貸与) 1年生、6年生それぞれと。



★ 徳島と言えば、「阿波踊り」ですが



(徳島市HPより)

◆ 平成23年8月14日 (徳島大学 **地域医療研究会** (顧問: 総合診療医学分野教授) HPより)
 サークルの阿波踊り連「地医輝連」が、今年も自治医科大学の徳島県出身学生との
 合同連としてパワーアップして徳島市内の演舞場へ踊り込みました。 → 毎年、踊り込み



「地域医療支援センター」運営事業(概要)

【平成23年11月から、徳島県が、徳島大学病院に事業委託】

地域医療を担う医師の「キャリア形成支援」や「医師の配置調整」など、本県の医師確保対策を総合的に行うため、県が徳島大学病院に委託し、県医師会等関係機関との連携による「徳島県地域医療支援センター」を新たに設置し、本県における地域医療の安定的な確保を図る。

平成23年11月1日設置

総合メディカルゾーン本部

徳島県地域医療支援センター

地域医療支援センター長

副センター長

副センター長

副センター長

担当職員
(医師・事務)

徳島大学病院に委託

企画委員会

※中核病院等
の実務担当者

センター機能

- ① 医師のキャリア形成支援
- ② 地域医療に関する調査・分析
- ③ 医師の配置調整
- ④ 医師確保対策
- ⑤ 総合相談窓口・情報発信
- ⑥ 地域医療関係者との意見調整

◆地域医療支援センター運営会議

(中核病院、市長会、町村会、県医師会 等)※病院長クラス

センター紹介

活動報告

キャリア形成支援

プログラム検索

徳島の医療

地域枠の方へ

センター紹介 About Center

挨拶

国は地域医療崩壊の危機にある都道府県に対して「地域医療支援センター」を設置して、地域医療の再生や活性化に努めています。徳島県では、徳島大学病院内に「徳島県地域医療支援センター」の事務局を設置し、徳島県の地域医療を担う医師の人材確保や配置、キャリア育成、研修プログラムの検討などを行ってきました。



日本で急速に進んでいる少子高齢化や地域の過疎化、増加する社会保障費抑制策としての診療報酬改定や病床削減計画などの厳しい社会環境を生き抜くには、徳島県全体で地域医療のあり方を考え工夫し、そして支えなければなりません。2017年度からは新専門医制度も開始され、ますます大学病院と地域の関連施設との診療・研修面での密な連携協力と共通研修プログラムの構築などが必要になります。また地域枠の医学生も昨年からは研修医として卒後研修を開始しており、彼らを地域でどのようにして育成していくかも重要な課題です。

これらの課題の解決のために、地域医療支援センターとしては徳島県全体の地域医療を考えた企画や事業を展開し、地域医療の再生と活性化に努めたいと思います。

徳島県地域医療支援センター長 徳島大学病院長 永廣信治

徳島県地域医療支援センター

Tokushima Community Medical Support Center

〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目5

電話：088-633-9544

FAX：088-633-9543

▶ 挨拶

▶ センターの概要

▶ 概要図

徳島県地域医療支援センター

Tokushima Community Medical Support Center

- センター紹介
- 活動報告
- キャリア形成支援
- 研修プログラムを探す
- 徳島の医療
- 地域枠の方へ



VOICE

徳島県の魅力的な先生をご紹介

講演会等

「CV個別講習会9月開催」のご案内



お知らせ News

- ▶ 「CV個別講習会 9月開催」のご案内 (2016年9月16日)
- ▶ 活動報告を更新しました。 (2016年9月15日)
- ▶ 「エビデンスに基づく医療を実現するEBMワークショップ」のご案内 (2016年9月7日)
- ▶ 「非専門医のためのHIV感染症との関わり方」開催のご案内 (2016年8月5日)
- ▶ 「若手医師のための英語勉強法—国際学会発表を目標に—」開催のご案内 (2016年8月2日)
- ▶ 「TOP KNIFE カンファレンス17—8月開催」のご案内 (2016年7月28日)
- ▶ 「総務がイライラ利用者のためのGRADEワークショップ」のご案内 (2016年7月20日)
- ▶ 総合診療の指導力育成事業「第11回徳島GM(サウンド)開催」のご案内 (2016年7月20日)

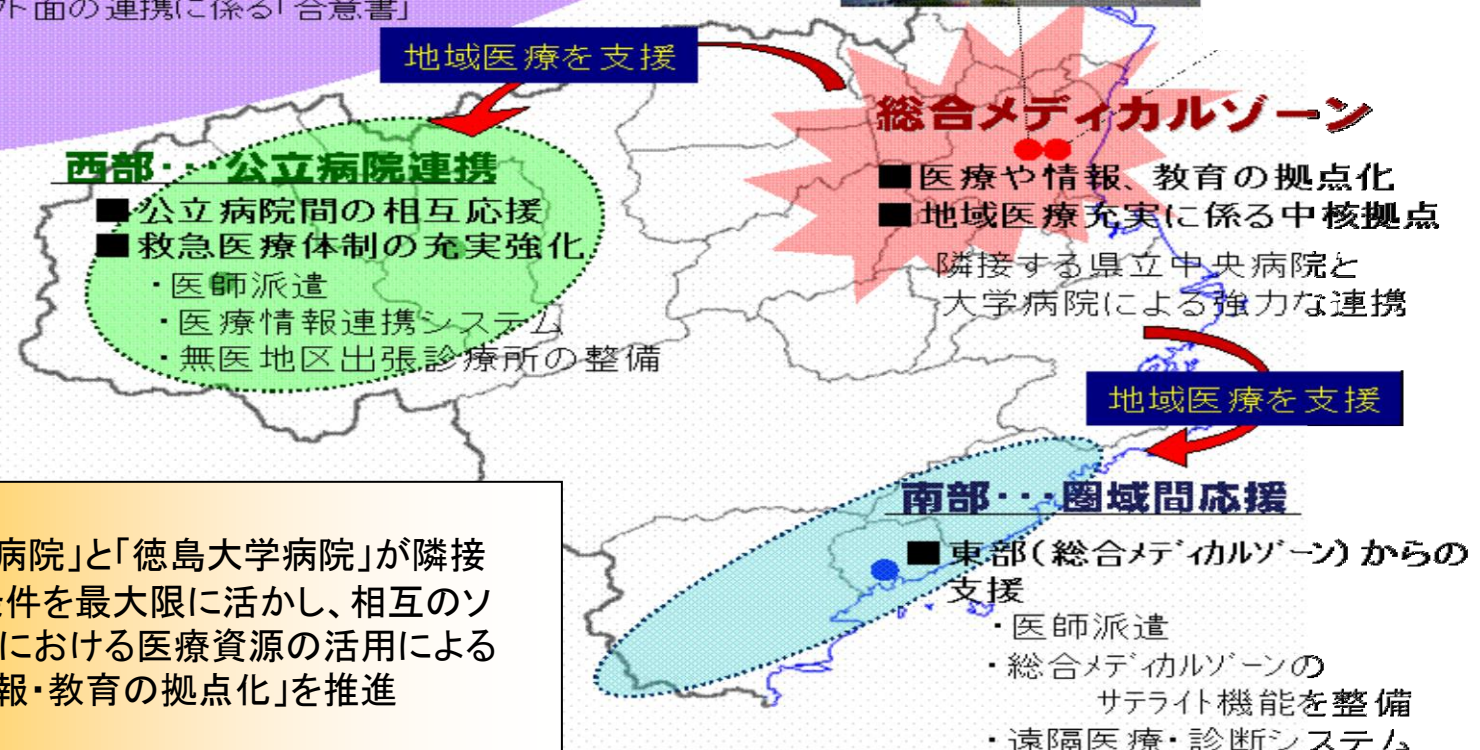
徳島県地域医療支援センター教員スタッフ

職名	氏名
センター長 徳島大学 病院長	永 廣 信 治
副センター長、企画委員長 徳島大学大学院医歯薬学研究部 医療教育学分野教授	赤 池 雅 史
副センター長 徳島大学大学院医歯薬学研究部 総合診療医学分野教授	谷 憲 治
副センター長 徳島県立三好病院 がん診療支援センター長	寺 嶋 吉 保
専任医師 特任助教	石 川 大 地

(ほか専従職員2名、平成28年8月1日現在)

総合メディカルゾーン構想

- H17. 8. 1 知事－学長間で、「総括的な合意書」を締結
- H18. 9.11 ハード面の連携に関する「合意書」
- H21.10.16 ソフト面の連携に係る「合意書」



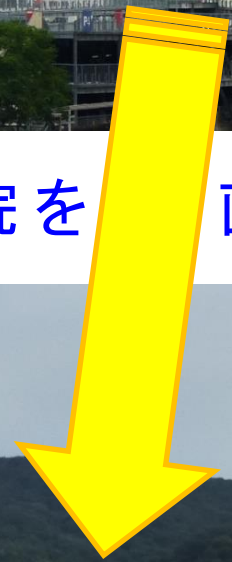
「県立中央病院」と「徳島大学病院」が隣接する地理的条件を最大限に活かし、相互のソフト・ハード面における医療資源の活用による「医療及び情報・教育の拠点化」を推進

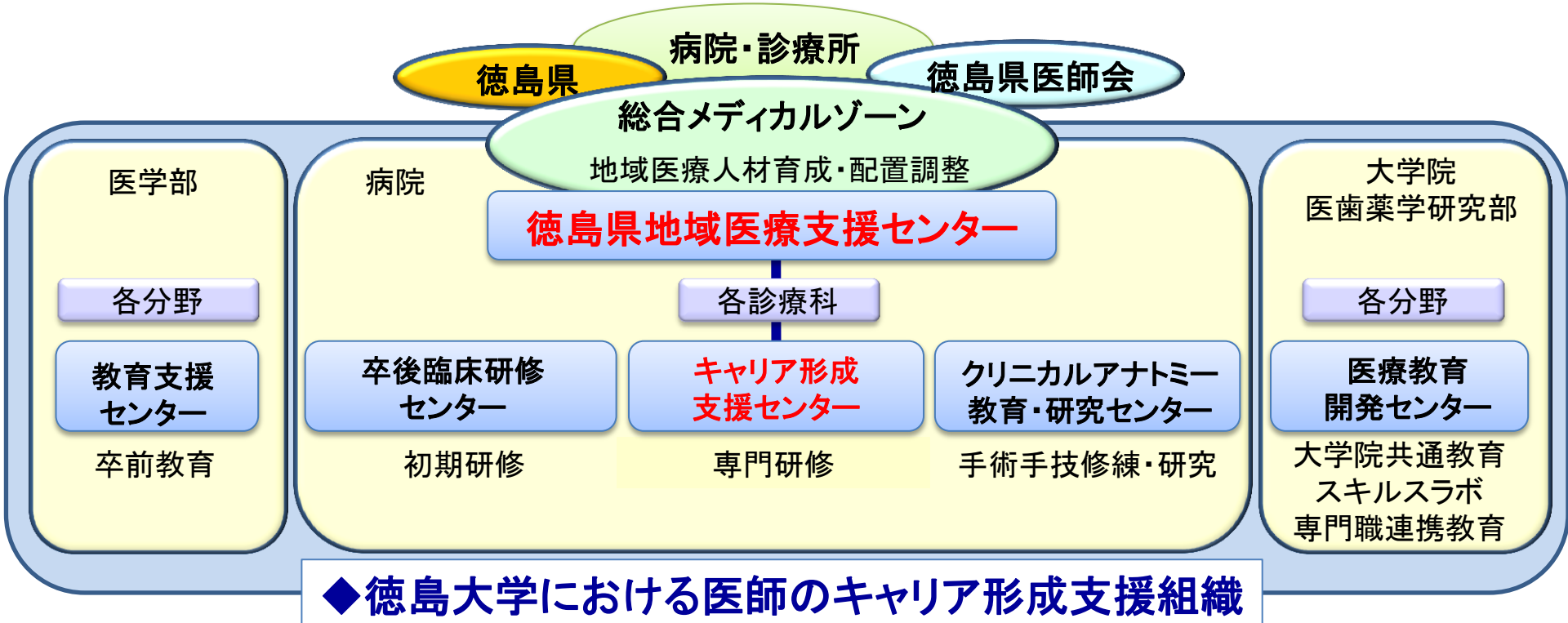
「総合メディカルゾーン」構想の取り組み ～隣接する徳島大学病院と県立中央病院～

- 「県民の安心」をめざした医療の拠点化
 - ・救命救急医療、小児救急医療、災害医療、地域医療の拠点
- 「県民の健康」をめざした医療の拠点化
 - ・周産期医療、がん医療、感染症医療、生活習慣病医療の拠点
- 「県民医療の発展」をめざした情報と教育の拠点化
 - ・医療情報、医療従事者教育の拠点
- 「総合メディカルゾーンの効率的な運営」をめざした施設・設備の建設と運営



徳島県立中央病院と徳島大学病院を直接つなぐ「連絡橋」





◆徳島大学における医師のキャリア形成支援組織

★地域医療支援センター

・地域医療支援センター運営会議（年1回）

委員：センター長、副センター長3人、病院長（県立中央病院、徳島市民病院、鳴門病院、吉野川医療センター、徳島赤十字病院、那賀町立上那賀病院、阿南共栄病院、つるぎ町立半田病院、県立三好病院）、県医師会長、市長会、町村長会、全日本病院協会支部、有床診療所協議会、県保健所長会長、県保健福祉部長

・企画委員会（年2～3回）

委員：副センター長3人、センター専任医師、徳島大学病院、県立中央病院、徳島市民病院、鳴門病院、健生病院、吉野川医療センター、阿波病院、徳島赤十字病院、阿南共栄病院、阿南中央病院、徳島県医師会（常任理事）、徳島県保健福祉部（副部長・次長）

・センタースタッフによる会議（月2回（副センター長3名、専任教員、事務局など）、うち1回はセンター長出席）

・初期研修についての会議（年1回）

・地域卒医学生（4～5年生）や医師との面談

・今後、センター長と地域医療機関との懇談の場も

医師のキャリア形成支援事業ならびに医師確保支援

地域医療支援センター基幹型 専門医研修プログラムの構築

キャリア形成と一体となった医師の適正配置により、
徳島の医療を牽引する医療リーダーを養成

- ・全52コース
- ・基本領域とサブスペシャリティを網羅
- ・徳島大学医学部教授、徳島大学病院診療科長がコース責任者
- ・地域特別枠※卒業生等に対応
- ・現在は新専門医制度に対応したプログラムを構築中

※ 地域特別枠・・・徳島県から修学資金の貸与を受けている者

徳島県地域医療支援センター 研修プログラム検索システムをホームページにアップ
Tokushima Community Medical Support Center

- センター紹介
- 活動報告
- キャリア形成支援
- プログラム検索
- 徳島の医療
- 地域枠の方へ

地域医療支援センター 基幹型専門医研修プログラム Program

研修を行う医療機関から探す 研修を行う診療科名から探す 取得できる専門医から探す

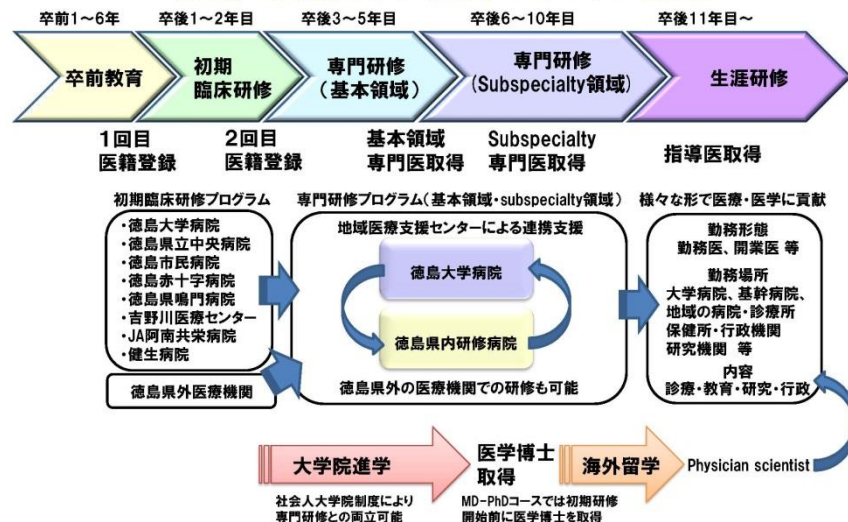
以上の条件で検索

※ここに表示している医療機関以外にも研修可能なので当センターに相談してください。

医療機関のグループ 1群 2群 3群

コース名	研修を行う医療機関	研修を行う診療科名	期間(年)	取得できる専門医	コース概要
プライマリ・ケアコース	徳島立中央病院	総合診療科	2年以内	家庭医療専門医、内科専門医 (追加研修により取得可能)	詳しい概要はこちら
	徳島市民病院	内科			
	徳島赤十字病院	総合診療科			
	徳島県鳴門病院	内科			
	阿南共栄病院	内科			
	徳島大学病院	内科			
	徳島県立海部病院	総合診療科			
	徳島県立三好病院	内科			
	つるぎ町立半田病院	総合診療科			

徳島を拠点とした医師のキャリア形成



医師育成支援事業の企画・実施



地域医療に関する調査・分析事業ならびに医師の配置調整

徳島初期・専門研修データベースの構築

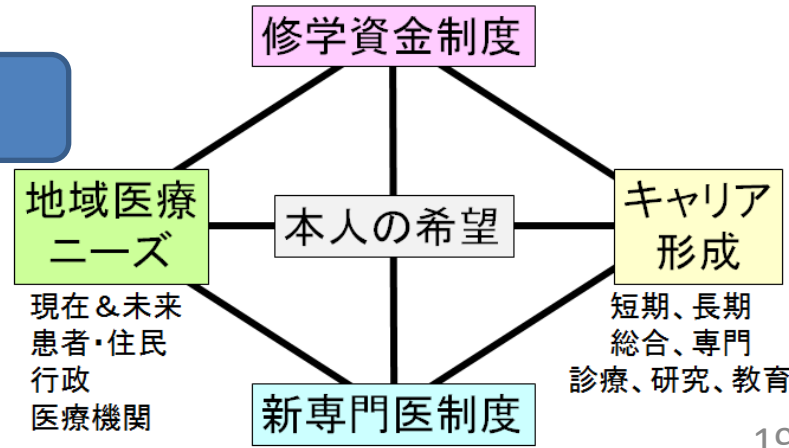
- 平成21年度以降の徳島県内での初期臨床研修、専門医研修の研修者を登録しデータベース化
- 年2回程度定点調査を行う・・・教育プログラムの進捗状況を各病院に確認
徳島県をキャリア拠点とするプログラム
- 徳島県内での初期臨床研修後に県外への流出医師の動向について解析を行う

地域枠医師の初期臨床に関する協議

- 地域枠医師の適正な配置を検討するため「地域枠学生キャリア支援協議会」を開催し、各病院間の情報共有と連携を図る

キャリア面談の実施

- 地域枠医師と地域枠制度以前に徳島県から修学資金の貸与を受けている医師について面談等によるキャリア形成支援を行う



総合相談・情報発信事業

ホームページの更新・内容の充実

- 医療機関紹介
- 寄附講座の取組紹介
- キャリア紹介
- 研修プログラムの呈示
- 講習会等の案内

広報誌「トクドク」の作成

- 本センターと徳島での研修・就業の魅力をアピールするため、広報誌を年2回発行

地域枠学生へのアンケート調査

- 基本領域専門研修希望、医学博士取得、業務中断制度の取得希望、留学(国内外)など



地域医療支援センターにおいて

- 地域枠医学生の進路希望調査(アンケート)
 - ・基本領域専門研修希望
 - ・医学博士取得
 - ・業務中断制度の取得希望
 - ・留学(国内外)など

● 地域枠の医学生・医師のキャリア面談

- ・とくに、平成28年度は地域枠1期生が臨床研修2年目。平成29年度(専門医研修)に向けて、面談実施(夏～秋)。
地域医療支援センターの副センター長、助教 と 県保健福祉部次長。

- 「地域枠医師の卒後ローテーションとキャリアパスを構築するためのワークショップ」
 - ・平成27年度、平成28年度 夏にこれまで2回開催(今後も)



地域特別枠の配置調整を通して 徳島県全体の医療のあるべき姿を考える

修学資金制度

地域医療
ニーズ

現在 & 未来
患者・住民
行政
医療機関

本人の希望

キャリア
形成

短期～長期
診療
研究
教育

専門医制度・生涯教育

徳島を拠点とした医師のキャリア形成

卒前1～6年

卒後1～2年目

卒後3～5年目程度

卒後6～10年目程度

卒後約11年目～

卒前教育

初期
臨床研修

専門研修
(基本領域)

専門研修
(Subspecialty領域)

生涯研修

1回目
医籍登録

2回目
医籍登録

基本領域
専門医取得

Subspecialty
専門医取得

指導医取得

初期臨床研修プログラム 専門研修プログラム(基本領域・subspecialty領域) 様々な形で医療・医学に貢献

- ・徳島大学病院
- ・徳島県立中央病院
- ・徳島市民病院
- ・徳島赤十字病院
- ・徳島県鳴門病院
- ・吉野川医療センター
- ・JA阿南共栄病院
- ・健生病院

徳島県外医療機関

地域医療支援センターによる連携支援

徳島大学病院

徳島県内研修病院

徳島県外の医療機関での研修も可能

勤務形態
勤務医、開業医等

勤務場所
大学病院、基幹病院、
地域の病院・診療所
保健所・行政機関
研究機関等

内容
診療・教育・研究・行政

大学院進学

社会人大学院制度により
専門研修との両立可能

医学博士
取得

MD-PhDコースでは初期研修
開始前に医学博士を取得

海外留学

Physician scientist

医師のキャリア 形成支援とその広報

講演会・
研修会開催



徳島GMラウンド

平成31年度 徳島県地域医療支援センター 特別講演会
**大学と地域医療支援センターの
地域医療構築への取り組み**

日時 平成28年2月12日(金) 18:30~20:00
 場所 徳島大学病院 白鷺ホールWhite(外来診療棟5階)
 プログラム センター長挨拶 徳島大学病院長 安井 夏生
 特別講演 徳島センター長/徳島大学大学院医学研究科総合診療学分野 教授 谷 憲治
 「大学と地域医療支援センターの
地域医療構築への取り組み」
 徳島大学病院 地域医療支援センター-部長 大橋 哲洋 先生
 大橋 哲洋 先生
 平成元年 徳島大学医学部 卒業
 平成7年 Johns Hopkins大学(米国)医学士
 平成10年 徳島大学医学部 内科学 専攻 卒業
 平成20年 徳島大学大学院医学研究科 内科学 専攻 卒業
 徳島大学地域医療支援センター 特任教授
 平成25年 徳島大学病院 地域医療支援センター-部長 兼務
 平成26年 徳島大学大学院医学研究科 内科学 専攻 教授(兼務)

会場 (白鷺ホールWhite)



CV個別講習会



内科救急・JMECC

ホームページ開設

<http://www.t-cm.jp/>

- ・地域医療の取組紹介
- ・キャリア紹介
- ・医療機関紹介
- ・研修プログラム紹介
- ・講習会等の案内 等

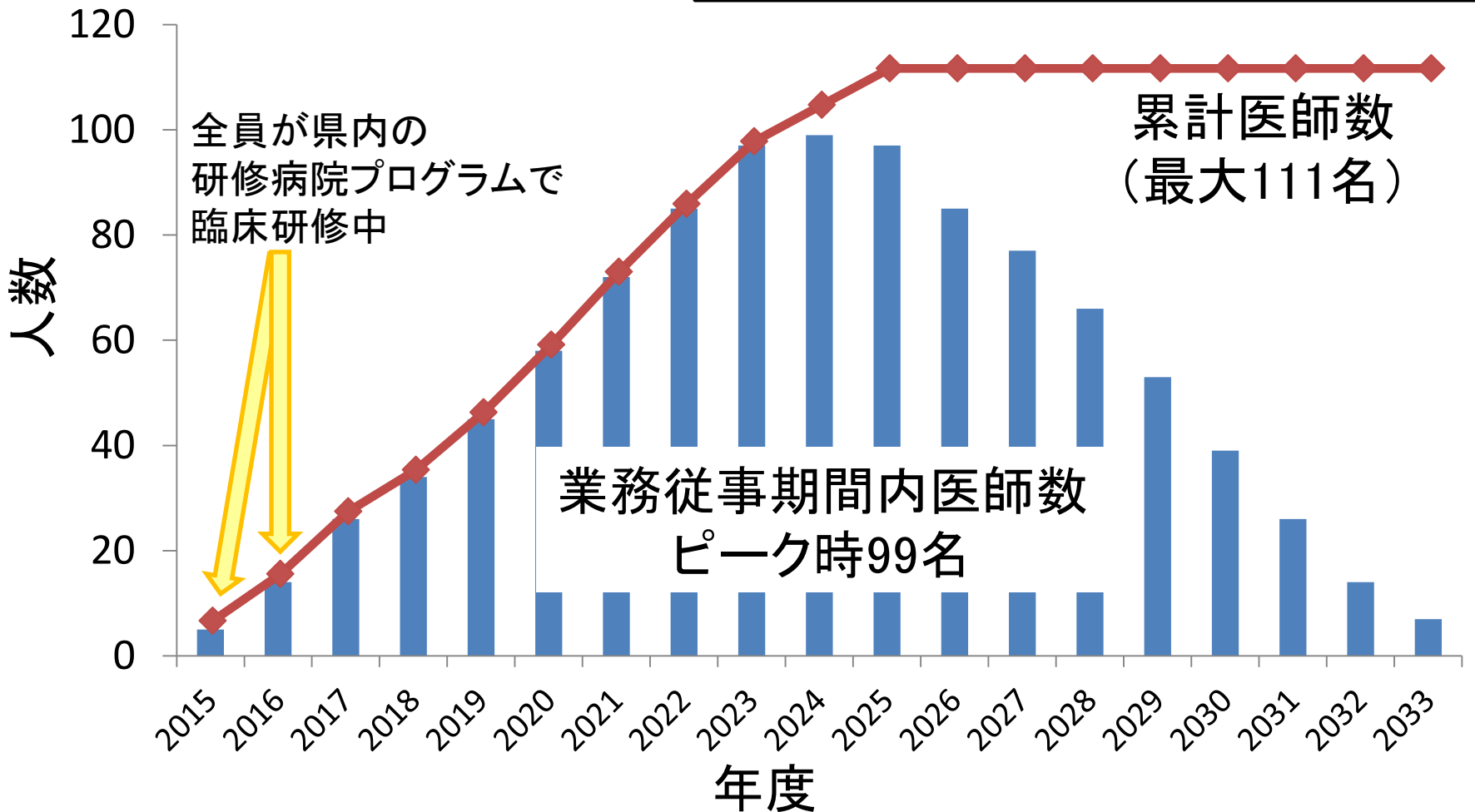
広報誌発行



徳島県地域特別枠医師数の年次推移(推計)

制度延長が無い場合の
2016年度時点での推計

2009年度入学	12名(5名)
2010～2017年度入学	17名(12名)
2018～2019年度入学	12名(7名)
()は特別枠(内数)、いずれも最大の場合	



地域特別卒業者の基本ローテーション

● 6年間修学資金の貸与を受けた場合 → 9年間の場合の業務従事期間

年 数	業務従事期間（最長9年間）									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ローテーション病院群	1・2群 臨床研修		1・2・3群 3群の病院を最低1年							
	9年間のうち、3群の病院を最低3年									

※3～6年目に3群の病院を最低1年勤務かつ
9年間のうち、3群の病院を最低3年間勤務。

【徳島県内の公的医療機関等】

1群病院：県立中央病院，徳島市民病院，徳島赤十字病院，徳島県鳴門病院，
吉野川医療センター，阿南 中央病院，阿南共栄病院，阿波病院

2群病院：徳島大学病院

3群病院：県立海部病院，県立三好病院，つるぎ町立半田病院

- ・業務を最長で**3年間中断**し、国内外での留学・研修等が可能
- ・下記条件を満たし、知事が特別に認めた場合はさらに**4年間の中断**が可能
 - ①自身の医学的知識・能力の向上に役立つ進学等であること
 - ②加算期間中の研修計画等県が別に定める様式を提出すること
 - ③最低**1年間の3群勤務**をしていること

専門研修プログラムの構築・透明化

徳島県地域医療支援センター基幹型

地域特別卒業者に対応

徳島大学病院基幹型

徳島大学の関連病院中心

キャリア形成支援センターが支援

- 基本 & サブスペシャルティ領域
- 徳島大学教授・科長がコース責任者

徳島県内の研修病院基幹型

徳島県地域医療支援センター Tokushima Community Medical Support Center **研修プログラム検索システム**

センター紹介 活動報告 キャリア形成支援 プログラム検索 徳島の医療 地域枠の方へ

地域医療支援センター 基幹型専門医研修プログラム Program

研修を行う医療機関から探す 研修を行う診療科名から探す 取得できる専門医から探す

以上の条件で検索

※ここに表示している医療機関以外も研修可能なのでセンターに相談してください。

医療機関のグループ 1群 2群 3群

コース名	研修を行う医療機関	研修を行う診療科名	期間(年)	取得できる専門医	コース概要
プライマリ・ケアコース	徳島県立中央病院	総合診療科	2年以内	家庭医療専門医、内科専門医 (追加研修により取得可能)	詳しい概要はこちら
	徳島市民病院	内科			
	徳島赤十字病院	総合診療科			
	徳島県専門病院	内科			
	阿南共栄病院	内科			
	徳島大学病院	内科			
	徳島県立海部病院	総合診療科			
	徳島県立三好病院	内科			
	つるぎ町立半田病院	総合診療科			

徳島初期・専門研修データベースの構築

徳島大学病院や徳島県内研修病院を基幹とする初期・専門研修プログラムの研修者を登録し、データベース化(平成21年度～)

◆徳島大学医学科5～6年生「地域医療」実習の拠点として…県立海部病院

総合診療医学分野が、平成22年4月、徳島県の寄附講座として徳島大学大学院に開設(平成19年10月より前身である地域医療学分野)。地域医療レベルの向上と地域医療に貢献できる総合診療医育成に向けた研究。徳島県立海部病院の地域医療研究センターを研究拠点とし、徳島県の地域医療に貢献しながら、医学生～初期研修医、後期研修医への継続した総合診療医育成システムの構築に努めている。

徳島大学医学部の臨床実習クリニカル・クラークシップに平成20年度より地域医療実習が導入され、医学科5年生～6年生、医学生全員が1週間の海部郡内での地域医療(保健福祉介護含め)実習を体験。毎月、実習の最終日午後、報告会が開催、地域住民や医療機関等のスタッフも参加、交流している。住民からは、歓迎と期待の声あり。総合診療医学分野に進み、海部病院に来る医師も出始めている。

平成20年11月29日 地域医療を考えるシンポジウム (当時)

◆シンポジウム「地域医療を考える」

座長: 梶井英治 (自治医科大学地域医療学センター教授)

シンポジスト

藤本晴枝 (千葉県 NPO法人地域医療を育てる会理事長)

和久祥三 (兵庫県柏原病院小児科医長)

丹生裕子 (兵庫県柏原病院の小児科を守る会代表)

大塚明廣 (徳島県医師会副会長)

谷 憲治 (徳島大学大学院HBS研究部地域医療学分野教授)

石本知恵子 (海部郡婦人連合会副会長)

アドバイザー

佐野雄二 (徳島県保健福祉部医療健康政策局次長)

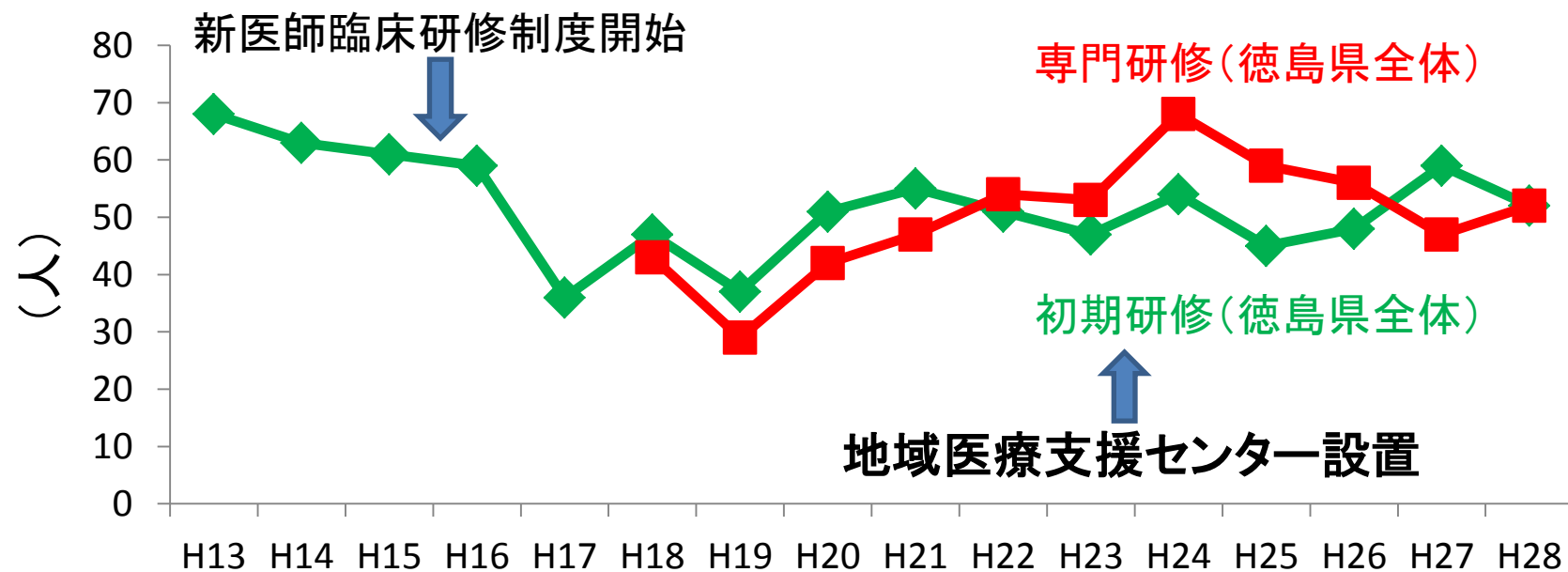
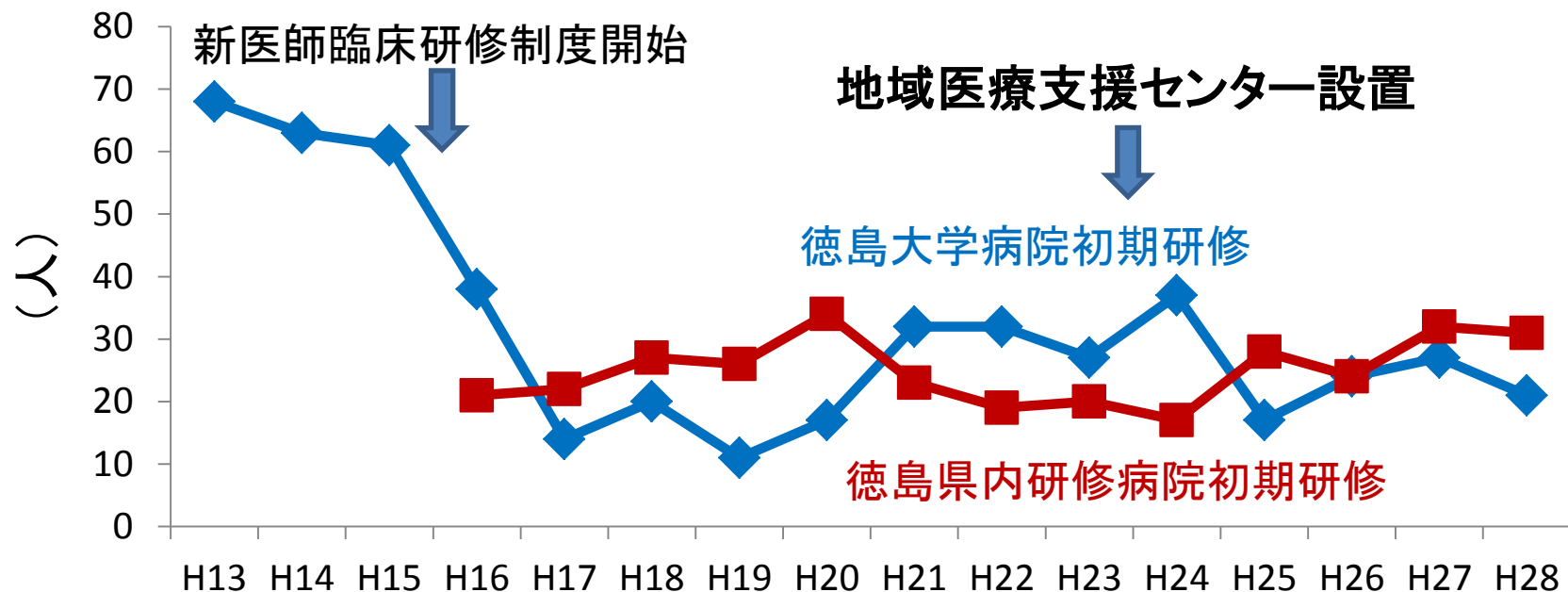


「地域医療を守る会」の副会長として、「海部の母」的な存在として。



- ◆主催: 徳島県
- ◆共催: 徳島県医師会、(財)地域社会振興財団
- ◆後援: 美波町、牟岐町、海陽町、徳島大学、海部郡医師会、海部郡婦人連合会

徳島県における初期・専門研修登録者数年次推移



◆A臨床研修医・・・医学科3年の「へき地医療」の講義受講後、休暇時に体験研修し、卒業後、西部医療圏 山間部のへき地診療所で、臨床研修「地域医療」の最中に

- ・毎年7月に、診療所長と私の2人で、3年生「公衆衛生学」講義(午前中)担当。
へき地医療の現場・5疾病5事業・地域包括ケア等含め、現場からのナマの話。
- ・今年は、指導医である診療所長と研修医(1か月間、診療所で研修中)と一緒に、医学生の講義へ。
- ・人口減少・少子超高齢化の中、地域のNPO法人との活発な活動との連携など。



◆B専門研修医・・・南部医療圏 山間部のへき地診療所での臨床研修「地域医療」を経験して、その後、大学病院で専門研修へ

- ・「現地で研修するまでは、将来の選択肢になかったが、診療所長やスタッフ、地域の方々に学び、体験したことで、考え・視野が大きく広がった。今は専門分野を研修しているが、将来の選択肢としても考えたい」的な話。 **ロールモデル**となる医師として、指導医であった診療所長をあげた。地域での**看取り**、**地域包括ケア**の展開・推進など。



徳島県地域医療支援センター

Tokushima Community Medical Support Center



医師にはどんな進路があるのかな？

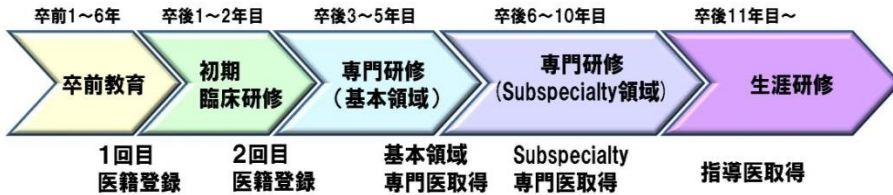
徳島でどんな研修ができるのかな？

どんなふうに研修をするといいのかな？

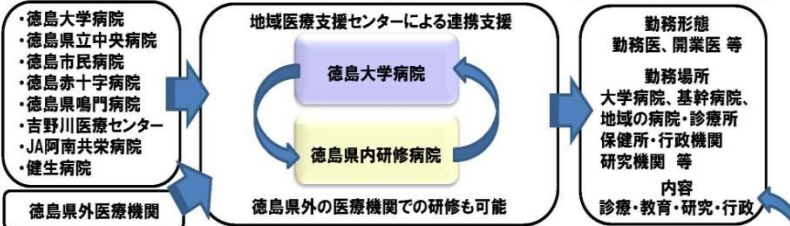


徳島県ではこのような研修ができます！

徳島を拠点とした医師のキャリア形成



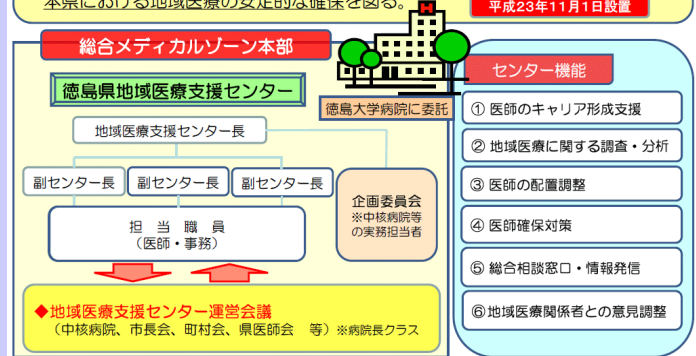
初期臨床研修プログラム 専門研修プログラム(基本領域・subspecialty領域) 様々な形で医療・医学に貢献



徳島には多くの専門研修プログラムがあります。徳島県地域医療支援センターでは、基本領域ならびにSubspecialtyにおける専門研修プログラムの連携調整に取り組みます。

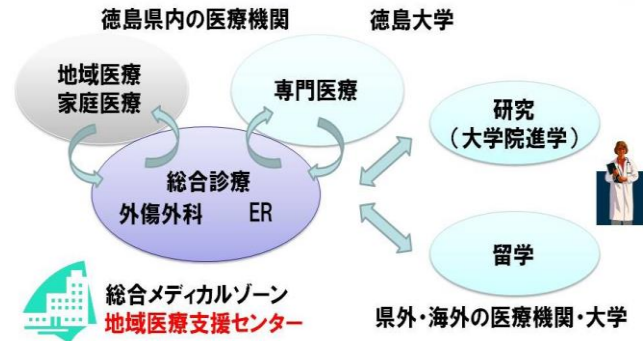
地域医療支援センター運営事業（概要）

地域医療を担う医師の「キャリア形成支援」や「医師の配置調整」など、本県の医師確保対策を総合的に行うため、県が徳島大学病院に委託し、県医師会等関係機関との連携による「徳島県地域医療支援センター」を新たに設置し、本県における地域医療の安定的な確保を図る。平成23年11月1日設置



徳島県地域医療支援センターの役割

- ・各医療機関の特徴を活かし、相互補完的な研修プログラムを提供
- ・若手医師の多様なキャリア形成ニーズに対応
- ・優れた医師の育成を通して徳島県全体の医療ニーズに貢献



広報誌「トクドク」は大学などで配布しています。
またセンターのホームページでもご覧いただけます。



徳島県 医師のキャリアデザインを
考えるマガジン。
トクドク
TOKUSHIMA X DOCTORS

「教育カンファレンス・教育回診(徳島GMラウンド)」を県内の各臨床研修指定病院が持ち回りで担当し、企画・実施しています。

他にも、「地域医療を担う医師育成支援事業」では、研修の開催や参加の助成を行っています。



徳島の医療を支える「芽」を育てます。

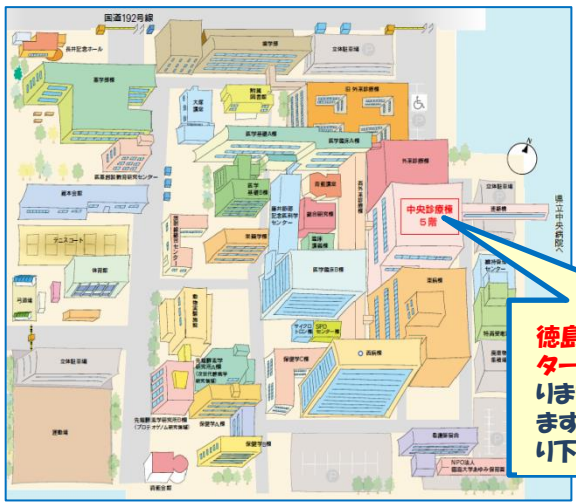


センター紹介 活動報告 キャリア形成支援 プログラム
VOICE Reports
人間が大好きです！
田端 良 (徳島大学総合診療医学部)
(2012年4月15日)

後輩へのメッセージ
どのようなお医者さんになるか、どのような理のお医者さんになるかは、出会いで決まらなければなりません。お医者さんとしても幸せな職業で、どのような形でも素晴らしい仕事であることは間違いないと思います。だから何でもよいのです。医師生活を楽しくしておいてください。

こんにちは、徳島大学総合診療医学部所属し、演習科で勤務している田端良です。早いもので医師になって6年が経とうとしています。私が現在の総合診療医の道を選んだのは研修医2年目でした。徳島県立中央病院の研修をしている間に、新設医学科の大切さ、重要さ、面白さを教えていただき、私をその分野に導いてくれた。新設医学科からまず研修の機会を研修科、研修医、専門性を考慮して、自分自身で選べる医学科、専門医で対応が必要な疾患、緊急治療が必要な疾患を研修したいと思いません。そこにいるような疾患に対応できる総合診療医にならうと思いました。徳島県では総合診療医を育成するプログラムがないため、他県で研修をつとまっていた年間に、併発生に声をかけて

ホームページでは、センター紹介、活動報告、徳島の医療の概況などに加えて、徳島県の魅力的な医療人をご紹介します。「VOICE」というページがあります。進路などの参考にできればと思います。



徳島県地域医療支援センターは、中央診療棟5階にあります。研修資料などもありますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

【連絡先】
〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50-1(徳島大学病院内)
TEL:088-633-9544/FAX:088-633-9543
E-mail: t-cmsc@tokushima-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.t-cm.jp/>